

函館・高等教育プラットフォーム中長期計画
進捗状況

令和8年3月
キャンパス・コンソーシアム函館

プラットフォーム名：

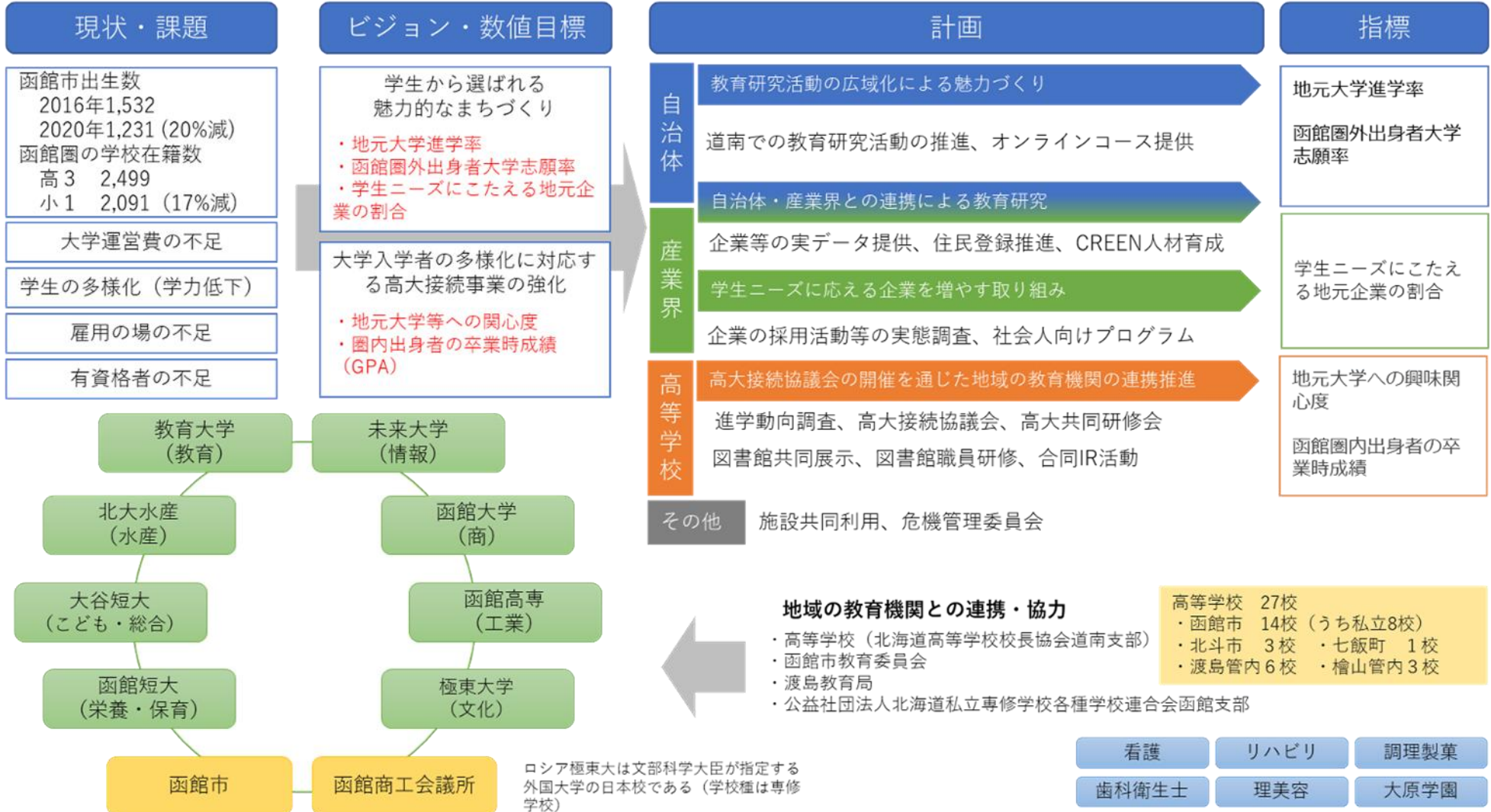
様式1) プラットフォームの連携体制・中長期計画の概要図 (1ページ以内) ※全てのプラットフォームが記入

○現状・課題、ビジョン・目標 (数値目標含む)、連携体制図 (協議体制含む)、取組の抜粋等により、プラットフォームの全体像がわかるように作成してください。

プラットフォームの連携体制・中長期計画又は基本方針の概要図 (令和5～9年度)

地域：北海道函館市

名称：キャンパスコンソーシアム函館



プラットフォーム名：

様式2) 中長期計画に対する自己評価 (1 ページ以内) ※計画策定から1年以上のプラットフォームのみ記入

全体評価	S : 当初の計画を超え、目標を上回る顕著な成果が得られている。 A : 当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる。 B : 当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。 C : 当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である。 D : 当初の計画を大幅に下回っており、目標の達成見込みがないため、計画に関する抜本的な見直しが必要である。
------	---

A

評価理由

令和5～9年度の5か年計画の中間時点(令和6年度～7年度前半)の活動としては、順調に進めることができた。以下、評価の理由を示す。

(1) 教育研究活動の広域化による魅力づくり
「北海道ワイン」をコンテンツとする決定をし、北海道大学北海道ワイン教育研究センター長曾根教授の協力を得て、函館短期大学食物栄養学科が中心となって取材を終え、映像の編集を行っている。また、CCHと函館渡島檜山ゼロカーボン北海道推進協議会との連携について、CCH理事会で提案することを決議した。同協議会は18市町で構成されており、教育研究科活動の広域化につながるものと評価している。

(2) 自治体・産業界による学生支援および教育研究への協力
令和6年4月から始まった函館市奨学金返還支援事業は、学生支援機構の返済について、函館市から認定を受けた市内中小企業や介護・保育施設等へ正職員として採用され、函館市内に居住した場合、5年間(60か月分)を限度に年間最大24万円(最大120万円)支援する事業である。特に保育士として市内に就労した場合は、返済額の2/3を函館市、1/3を事業所が負担するので、学生本人は負担なく最大120万円が支給されるもので、大いに評価できる。また、本事業について加盟校の在学生へ周知する取り組みを、事業担当部署(函館市経済部)と連携して進めている。

(3) 学生ニーズに応える企業を増やす取り組み
令和7年3月から、新たな企画として「社会人のためのTOEIC講座」を行い、動画による全3回の講座と、TOEIC IP試験(オプション)を提供した。受講生は3月に14名、8月に「社会人のためのTOEIC講座(保育者編)」の受講生が6名となり、目標の15人を達成した。この講座を継続することで、資格等でキャリアアップを望む若者のニーズに応える企業を増やしていきたい。

(4) 高大接続協議会の開催を通じた地域の教育機関の連携推進
令和6年度は「生成AIと教育のこれから」、令和7年度は「通信制の魅力と課題」というテーマで高大接続研修会を行い、地域外からも多数参加があった。

(5) その他大学運営の連携
昨年に引き続き、令和7年9月に高等教育グランドデザイン意見交換会を開催した。中教審答申(知の総和答申)にて示された「地域構想推進プラットフォーム」についてどのように取り組むべきかについても言及され、地域の大学間の連携が推進されたと評価する。

評価に関する備考(考慮すべき事項)

企業の採用活動等の実態調査アンケートの回収は目標未達(目標200件で回収74件)だが、メールでの依頼に変えたことで回収率が低下したものであり、DXを進める上ではやむを得ないと考え、評価を下げるものではないと考えている。

プラットフォーム名：

様式3) 達成目標・活動指標等 (おおむね10頁以内) ※計画策定から1年未満のプラットフォームの場合は「課題」～「活動指標」欄までの記入						
課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考	
学生から選ばれる魅力的なまちづくり	(1) 大学等進学時の流出・流入率の改善 ① 地元大学進学率 R5: 16.9% R9: 18.1% ② 函館圏外出身者大学志願率 R5: 0.202% R9: 0.218%	◆ 教育研究活動の広域化による魅力づくり ① オンラインコースの提供 ② アカデミックリンクにおける広域な教育研究活動の発表 ③ CREEN 人材育成プログラムの企画・開発	・ オンラインコース受講者数 (R6年目標 ー 人) ・ アカデミックリンク出展数 (R6年目標 50 件)	◆ オンラインコースのテーマを「北海道ワイン」として取材 (R7.9) ◆ 北大「水産学演習」「起業家育成演習」に CCH 加盟大学から参加 (R6.8~9) ◆ アカデミックリンク開催、ブース61、ステージ8、計69件出展 (R6.11) ◆ CCH と函館渡島檜山ゼロカーボン北海道推進協議会との連携について、CCH 理事会で提案することを決議 (R7.10)	A	
	(2) 学生のニーズに対応する地元企業の割合の改善 ① 就職先企業に学生が求める項目にどれだけこたえているか (令和4年度調査を基準として、5年間で10%の改善を目標とする)	◆ 自治体・産業界による学生支援および教育研究への協力 ① 自治体・企業からの実データの提供 ② 地域就労を条件とした学生支援 ③ 住民票登録の学生へ働きかけ	・ データを活用する授業等の数 (R6年目標 ー 件) ・ 学生の住民登録率 (R6年目標 45 %)	◆ WG にて加盟大学にデータ活用における状況調査を実施 (R7.9) ◆ 函館市奨学金返還支援事業が開始 (R6.4) ◆ 住民票登録が現住所と同じ学生は51% (R7.9, 加盟校調査)		A
		◆ 学生ニーズに応える企業を増やす取り組み ① 企業の採用活動等の実態調査 ② 社会人向けプログラム	・ 企業アンケート回答社数 (R6年目標 200 件) ・ 社会人向けプログラム受講者数 (R6年目標 15 人)	◆ 企業の採用活動等の実態調査アンケート実施 (R7.2~3月、回収74件) ◆ 社会人向けプログラムとして「社会人のための TOEIC 講座」「同 (保育者編)」を開催 (R7.3~ 計20名受講)		

プラットフォーム名：

様式3) 達成目標・活動指標等 (おおむね10頁以内) ※計画策定から1年未満のプラットフォームの場合は「課題」～「活動指標」欄までの記入

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
大学入学者の多様化に対応する高大接続事業の強化	(3) 地元大学等への興味関心度の改善の改善 ① 市内の学校の1つ以上に「進学先として関心がある」「関心がある」と回答した生徒の割合 R5：71% R9：75% (4) 函館圏内出身者の学習到達度の改善 ① 卒業時の累積GPAを、函館圏内高校出身者平均と全卒業生平均の差	◆ 高大接続協議会の開催を通じた地域の教育機関の連携推進 ① 高大接続協議会の開催 ② 函館市地元進学動向調査アンケートの実施 ③ 高大共同全体研修会の開催 ④ はこだてLL (ライブラリーリンク) 文庫の高大連携 ⑤ 図書館職員合同研修の高大連携 ⑥ 合同IR活動	・ 進学動向調査アンケート回答数 (R6年目標 1980 件) ・ 高大共同研修参加者数 (R6年目標 100 人) ・ 高大連携LL文庫参加図書館数 (R6年目標 11 館)	◆ 高大接続協議会開催 (R5.5, R6.5, R7.6) ◆ 地元動向調査アンケート実施 (R6.12、回収1,461件) ◆ はこだてLL文庫 Vol.16 (R6.10～11、参加11館) ◆ 図書館職員合同研修「「ちびくろ・サンボ」絶版事件の謎を解く」(R7.3) ◆ 第7回高大接続協議会「生成AIと教育のこれから」(R6.8.5@Zoom 参加141人) ◆ 第8回高大接続協議会「通信制の魅力と課題」(R7.9, @Zoom 参加60人)	A
		◆ その他大学運営の連携 ① 大学等施設の共同利用の促進 ② リスクマネジメントの情報共有 ③ 高等教育のグランドデザイン議論	・ 危機管理委員会で情報共有するリスク要因の種類 (R6年目標 2 件)	◆ 危機管理委員会開催。(R5.9, R6.9, R7.9) ◆ 函館大学からリスク要因一覧を共有 (R6.9) ◆ 函館大学バスを留学生進路相談会送迎で共同利用 (R6.8) ◆ 函館大学体育館を留学生進路相談会で共同利用 (R7.7) ◆ 高等教育グランドデザイン意見交換会開催。『中央教育審議会「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～(答申)について』(野又学園理事長) (R7.9)	A

函館・高等教育プラットフォーム 達成目標管理表

(1) 地元大学進学率

		R5	R6	R7	R8	R9
計画	地元大学進学率	16.9%	17.0%	17.1%	17.2%	18.1%
	(a) 圏内の高校卒業生数	2,390	2,552	2,398	2,561	2,359
	(b) 函館圏内からの入学者数	405	435	410	440	426
実績	地元大学進学率	16.6%	18.6%			
	(a) 圏内の高校卒業生数	2,223	2,220			
	(b) 函館圏内からの入学者数	368	412			

R5実績：(a)R6学校基本調査（北海道）卒業生数（全日制のみ） (b)加盟校調査（R6.4入学生）

R6実績：(a)R7学校基本調査（北海道）卒業生数（全日制のみ） (b)加盟校調査（R7.4入学生）

R7実績：

R8実績：

R9実績：

(2) 函館圏外出身者大学志願率

		R5	R6	R7	R8	R9
計画	函館圏外出身者大学志願率	0.202%	0.210%	0.212%	0.214%	0.218%
	(a) 全国の高校卒業生数	990,000	954,000	981,000	981,000	972,000
	(b) 函館圏外からの志願者数	2,000	2,000	2,080	2,100	2,120
実績	函館圏外出身者大学志願率	0.146%	0.198%			
	(a) 全国の高校卒業生数	918,850	929,157			
	(b) 函館圏外からの志願者数	1,342	1,841			

R5実績：(a)R6学校基本調査（eStat）R6.5.1高3生（全日＋定時） (b)CCH加盟校調査（R6年度入試の志願者）

R6実績：(a)R7学校基本調査（eStat）R6.5.1高3生（全日＋定時） (b)CCH加盟校調査（R7年度入試の志願者）

R7実績：

R8実績：

R9実績：

(3)学生のニーズに対応する地元企業の割合

		R5	R6	R7	R8	R9
計画	就職先への学生ニーズ（1）	令和4年度に第1回の調査を行う予定であり、その結果を基準として5年後の令和9年度において10%の改善を目標とする。				
	就職先への学生ニーズ（2）					
	就職先への学生ニーズ（3）					
実績	家賃補助、借り上げ住宅など住まいに関する福利厚生	37%	46%	43%		
	リフレッシュ休暇など企業オリジナルの休暇制度	26%	30%	25%		
	テレワークなど柔軟な働き方	19%	11%	14%		

R5実績：R5企業の採用活動等の実態調査(54件)

R6実績：R6企業の採用活動等の実態調査(74件)

R7実績：R7企業の採用活動等の実態調査(106件)

R8実績：

R9実績：

(4)地元大学への興味関心度

		R5	R6	R7	R8	R9
計画	「関心がある」の割合	71%	72%	73%	74%	75%
実績	「関心がある」の割合	56.0%	46.5%	49.9%		

R5実績：R5地元進学動向調査(660/1178)

R6実績：R6地元進学動向調査(679/1461)

R7実績：R7地元進学動向調査(793/1589)

R8実績：

R9実績：

(5)函館圏内出身者の卒業時成績

		R5	R6	R7	R8	R9
計画	0未満（同程度以上）	1/6	1/6	1/6	1/6	2/6
	0以上0.25未満（わずかに劣る）	2/6	2/6	3/6	3/6	3/6
	0.25以上0.5未満（やや劣る）	3/6	3/6	2/6	2/6	1/6
	0.5以上（劣る）	0/6	0/6	0/6	0/6	0/6
実績	0未満（同程度以上）	4/6	5/6	5/6		
	0以上0.25未満（わずかに劣る）	2/6	1/6	1/6		
	0.25以上0.5未満（やや劣る）	0/6	0/6	0/6		
	0.5以上（劣る）	0/6	0/6	0/6		

R5実績：CCH加盟校調査

R6実績：CCH加盟校調査

R7実績：CCH加盟校調査

R8実績：

R9実績：

		R5	R6	R7	R8	R9
◆教育研究活動の広域化による魅力づくり	・オンラインコース受講者数				10 ()	10 ()
	・アカデミックリンク出展数	50 57	50 70	50 66	50 ()	50 ()
◆自治体・産業界との連携による教育研究	・データを活用する授業等の数				2 ()	4 ()
	・学生の住民登録率	35% —	45% 44%	50% 51%	60% ()	65% ()
◆学生ニーズに応える企業を増やす取り組み	・企業アンケート回答社数	200 54	200 74	200 106	200 ()	200 ()
	・社会人向けプログラム受講者数		15 20		15 ()	
◆高大接続協議会の開催を通じた地域の教育機関の連携推進	・進学動向調査アンケート回答数	2000 1,178	1,980 1,461	1,960 1,589	1,940 ()	1,920 ()
	・高大共同研修参加者数		100 141	100 60	100 ()	100 ()
	・高大連携LL文庫参加図書館数		11 11	11 12	12 ()	12 ()
◆その他大学運営の連携	・危機管理委員会で情報共有するリスク要因の種類	1 1	2 2	3 3	4 ()	5 ()

令和7年度 キャンパス・コンソーシアム函館加盟校間での共同研究の実施状況

研究課題名	実施期間	研究資金名	研究費総額 (万円)	研究代表者名	研究代表者 所属機関名	共同研究者名	共同研究者 所属機関名
オホーツク文化の青銅製帯金 具はなぜこんなに鉛を含むの か？－古代鑄造技術の再現－	令和7年度 ～ 令和11年度	科学研究費 基盤研究C	455	吉田 圭輔	函館工業高等専門 学校	中村 和之 澤井 玄	函館大学 函館大学
外国人散在地域における避難 民のための日本語教育モデル の構築	令和6年度 ～ 令和8年度	科学研究費 基盤研究C	390	佐藤 香織	北海道教育大学教 育学部	村田 あきの	函館大谷短期大学
多職種連携による固有感覚の 視覚的フィードバックを用い た書字指導プログラムの開発	令和7年度 ～ 令和11年度	科学研究費 基盤研究C	364	白府 士孝	函館短期大学	吉田 圭輔	函館工業高等専門 学校